

新たな事業領域への挑戦です! 新空間演出ツール、LED電球スピーカー 「MUELIGHT」(ミューライト)を新発売しました

日東精工はファスナー事業、産機事業、制御システム事業の3つの事業部がシームレスに連携しながら「締結分野のトータルソリューション」を提供しています。と同時に新事業への「挑戦」が新たな創造へつながると考え、この度、NITTO SEIKOブランドのLED電球スピーカーを新発売しました。

今号はこの画期的新製品「MUELIGHT」をフィーチャーします。

スピーカーらしきものがどこにもないのに、音楽が流れてくる。「え、どこから聞こえてくるの? え、電球から!」とびっくりされるでしょう。本年8月29日当社 日東精工ではLED電球にBluetoothスピーカーを一体化させたユニークな製品「MUELIGHT」を新発売いたしました。

既存の照明器具から、電球だけをこの「MUELIGHT」に取り換えるだけで、高音質の音響設備に生まれ変わります。工事不要、複雑な配線も必要なしで、オーディオルームやリビングだけでなく、キッチンやパウダールームなど、自分の好きなところで音楽が楽しめますし、部屋の省スペース化にも貢献。

たとえばホテルの客室に採用されている場合、電球がじつはスピーカーになっていて、スマホやタブレットと同期させて、自分(お客様)好みの音楽を部屋全体で楽しむということなどもできるわけです。

日東精工の製品群はこれまでBtoB(企業間取引)形態を主にしてきましたが、取り巻く環境は常に変動しており、当社の事業領域も既存の充実に加え、新たな拡充が求められていました。このLED電球スピーカー「MUELIGHT」もその一環としてプロジェクトを発足させたものであり、製品改良、品質

管理体制の確立などの試行期間を経て、満を持して発売するものです。

そして日東精工の連結子会社、和光株式会社が販売窓口となります。同社は商社として、ねじやねじ締め機、流量計など日東精工の製品を販売するだけでなく、さまざまな部品を取り扱い、住宅機器メーカーなど幅広い販売チャネルを構築しています。このチャネルを活用して「MUELIGHT」の拡販を目指します。と同時にこの「MUELIGHT」をひとつのツールとして、日東精工グループ内の連携をさらに強めていくものです。

10月12日から14日まで大阪南港ATCホールで開催される「LIVING&DESIGN2016」にも出展予定。

●「MUELIGHT」の専用サイト

<http://www.wacohkk.co.jp/products/muelight.html>



社員一同が商品を理解し好きになることが基本です。当社各事業所で社員向けに実演販売しました。

製品特長

- スタイリッシュなデザインで自由に空間演出が可能
- Bluetooth機能でシンプルに音楽再生が可能
- 圧巻の高音質
- 利用シーンに合わせて選べる3モデル6種類

ティーンエイジの若い感性も、日東精工の大きな力です！



今年の夏、日東精工では京都府立工業高校生のインターンシップを受け入れました。上の写真は7月11日のあやべ市民新聞トップ紙面。日東精工での企業体験の様子をレポートし、研修中に発案された高校生のアイデアの具現化を目指していることを紹介したものです。

そして下の写真は舞鶴市にある「ポリテクカレッジ京都」を今春卒業し、当社に入社した梅原義貴（生産技術部 加工組立課勤務）が、卒業（総合）制作として約1年をかけて完成させた「マーブルマシン」です。「近畿ポリテックビジョン2016 最優秀展示作品賞」など4冠に輝いた作品で、ビー玉と鉄琴で、童謡や日東精工の社歌を自動演奏するマシンです。

ニュースレターでは以前にも、舞鶴高専との産学連携などを紹介しています。当社、日東精工は10代の若い感性を大事にし、それを伸ばし、大きな力にすべく応援・サポートしていきたいと考えています。



世界のビジネス誌「Newsweek」が当社をピックアップ！

当社ファスナー事業が8月10日に60周年を迎えたことは前号ですでお伝えしていますが、60周年を記念して、あやべ市民新聞の8月12日付で紙面1P全部を使ってねじの特集をしていただきました。



また「Newsweek（ニューズウィーク）」は世界200か国以上で販売されているビジネス誌ですが、その日本語版8月23日発売号でも当社の事業や製品が紹介されました。「The Extra Edge」という、今、注目すべき話題の人、モノ、製品などをピックアップする連載ページで、当社 日東精工の精密ねじ、極小ねじの優位性や「締結のトータルソリューション」が紹介され、またB to B（企業間取引）の会社でありながら、エンドユーザー向けへの合格祈願ねじプレゼントキャンペーン実施などについても、ユニークな取り組みであるとプラス評価をいただいています。

日東精工の企業ブランドを高めていくために、当社の事業や製品をより多くの方に知っていただくことが重要だと考えています。当社の等身大の姿を御理解いただくことで、新たな要望も生まれ、それにまたお応えしていくことが、お客様満足度120%、信頼を重ねていくことだと考えています。今後も発信力を高めて、新聞、雑誌、テレビ、WEBなど多くのメディアに注目いただけるよう、邁進してまいります。



自動地盤調査機「ジオカルテ」が 累積販売台数2000台突破

当社が製造・販売する「ジオカルテ」が、この度、累積販売台数2000台を突破しました。同機はスウェーデン式サウンディング試験（SWS）をコンピュータ制御によって初めて自動化した調査機であり、従来の手動式試験方法から大幅な能率向上を図り、快適で正確な貫入試験を実現したものです。「地盤調査機といえばジオカルテ」といわれるまで業界のスタンダード機械として認知されています。

そして、既にこのニュースレターでも紹介していますが、「ジオカルテ」は宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「宇宙探査イノベーションハブ」研究テーマのひとつに参画しています。国内外はもとより、近未来、当社の『地盤調査機』が宇宙で活躍するのも夢ではありません。

ジオカルテ モデルチェンジ推移



流量計「クリーンフロー」を フルモデルチェンジ

造船、薬品・食品、エネルギー、石油業界などで欠かせないのが「流量計」です。日東精工ではファスナー（工業用ねじ）だけでなく、制御システム事業部で高性能の流量計を製造・販売しており、お客様から常に高評価をいただいています。

この度、質量流量計「クリーンフロー」をフルモデルチェンジ。「クリーンフロー」は高機能トランスミッタを搭載し、流量計測、短時間充填、流体の濃度監視などで高精度に直接質量流量を計測できる流量計ですが、新たにセンサー構造を見直し耐震性をより高め、また計測チューブ内径を大きくし、低い圧力損失と最大流量の拡大を実現したものです。

8月から受注を開始しています。



北米シカゴで開催される工作見本市で 当社の技術力・総合力をアピール!

アメリカ・シカゴで2年に1度開催される国際工作見本市「IMTS」。毎回、2000社以上が出展し、全世界から10万人を超



える技術者の来場者が見込まれる展示会です。9月12日から17日まで開催される「IMTS2016」に日東精工も出展し、「締結分野のトータルソリューション」を全米マーケットにアピールいたします。

日東精工ではアメリカでの自動車産業の好景気を背景に、産機事業分野（自動組立機械）が好調に推移。今年の6月6日には米国第2の拠点として「アメリカテネシー支店」を開設しています。今後もアメリカでの新規開拓、販路拡大、そして既存ユーザー様へのサービス拡充を図っていきます。

新番組「ザ・ミッション」で 当社社長が4週連続インタビューを 受けました。

企業トップへのインタビューを通して、その会社の製品や技術・人の魅力を数回にわたり紹介していく、テレビ大阪の新番組「ザ・ミッション」。

当社代表取締役社長、材木正己が取材インタビューを受け、その模様が8月11日から9月1日まで毎木曜日4週にわたって放映され、いろいろな角度から当社の潜在力や魅力をご紹介いただきました。

毎週25:05と深夜枠で、また大阪・神戸など限られたエリアの方のみが視聴可能でしたので、この番組のダイジェストを当社 日東精工のホームページで

紹介しています。こちらもぜひご覧ください。



<http://www.nittoseiko.co.jp/ir/interview.html>

「急だったので……」「自分には荷が重い」
自分の成長を放棄する言葉は絶対に使わない

会議や冠婚葬祭の挨拶、その他のスピーチで「急のご指名で」と前置きをしたくなる場合がありますね。でもこれは見苦しい、みつともない言いわけです。準備不足、自信のなさを露呈したものと見てよいでしょう。

まず、実際に急のご指名などということはほとんどありません。よしんば急であったとしても、その会場に入ったときに、あらかじめその場の様子をつかんで用意しておくぐらいの心構えを持ちたいもの。「急に言われても……」と逃げる人がいますが、これは目先の仕事にしか目が向いていない証拠、視野不足の証明です。人前でスピーチ、挨拶、話をするのが上手であるとか下手であるということではなく、その場の空気を感じる、

と万が一に対応できるように備えたいもの。「急に」と言いたいたきもあるでしょうが、絶対に言わないのだとする心意気があなたを成長させるのです。

また「自分にはまだまだ荷が重い」とか「ほかに相応しい人がいる」という言葉も同様にNGワードです。雑務を押しつけられそうになったときの体のいい断り方でもあります。あなたのことを評価し期待し声をかけられている場合においては、それに応えるべく努力する、「未熟ですが、努力しますのでぜひ私をサポートしてください」と前向きになるのが、本来あるべき姿でしょう。与えられた使命に逆らうのは、謙遜でなく不遜である心持だいたいものです。

(経営コンサルタント・蒲田春樹)



「人生の『ねじ』を巻く77の教え」(ポプラ社)は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したものの書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものを随時ここでご紹介していきます。

ねじ大好き！ コラム

絆を深める童話「ねじのゆくえ」

小豆島を舞台に新任女性教師と子供たちの交流を描いた『二十四の瞳』。かつては教科書にも掲載され、何度も映画化やドラマ化されている不朽の名作です。

この『二十四の瞳』の著者、坪井榮の作品集に『ねじのゆくえ』という短編を見つけました。主人公の男の子は新しく買ってもらったおもちゃの機関車が原因でお隣の幼なじみとケンカになります。「貸して、貸さない」というたわいないケンカですが、後で機関車をみると、ねじ1本がなくなっていることに気がつきます。探してもなかなか見つからない。仕方なくお母さんに報告すると、幼なじみが持っていたのではと言われ、それに応えて「そんなこと彼はしないよ」と幼なじみをかばいます。

たとえケンカはしても、友を信じるというストーリー。小さなねじが「絆」を確かめ深めるという温かい余韻のあるお話です。

ねじのある街・あやべの魅力



綾部市民が誇れるものは
他者への思いやり

「あやべのイチバン！」という小冊子を綾部市が発行しています。スポーツ、芸術、産業などいろいろな分野の「ナンバーワン(1位)」「ファースト(最初)」「オンリーワン(唯一)」が50件ほど掲載され、当社日東精工の世界トップクラスのねじ生産力も紹介されています。

そして、綾部では高齢者や障害者、弱い立場の人に関連する「イチバン」が多いのも自慢です。たとえば一人暮らしの高齢者に毎月はがきを送る「ふれあ

いメール」は綾部市が全国で初めて実施したもの。綾部は「全国車イス駅伝発祥の地」でもあり、「いいこの村・栗の木寮」は全国初の「ろう重複障害者施設」。そのほか「認知症サポーター、認知症キャラバンメイトの数は京都府内最多」などなど。綾部の街は人にやさしい、思いやりに満ち溢れた街なのです。

